

教え子を再び戦場に送るな！

文科省の 「全国体力・運動能力・運動習慣など調査」 (全国一斉体力調査) 小5・中2対象に

**疑問
だらけ！**

「全国学テ」同様、調査結果は民間企業が集約
なぜ抽出調査でなく、全員対象なのか？
体力まで競争激化！

れば、抽出調査で十分です。

体力実態と特徴把握だけでは、抽出調査で十分です。

実施要領にも「過度な競争につながらないよう」「本調査の結果のみを向上させることを目指した体育の授業が展開されないように注意」と書かれているように、文科省自身が注意を喚起せざるを得ない危険な調査です。「全国学テ」同様、調査「結果」が公表されて、「改善対策」が競わされる危険があります。

文科省は「平成20年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査について」の実施をすすめています。「全国学テ」とほぼ同様の実施要領で国・公・私立の小5・中2の全児童生徒を対象にして今後も毎年継続して実施するとしています。

なっています。

5月21日までに回答することによって、抽出調査で十分です。

「全国学テ」でとったような「同意書」については、必要なしという姿勢を示しました。

「全国学テ」と同様に、児童生徒、保護者等関係者に周知し、理解を得ることについて、市教委学校保健課は、保護者あての「ひな形」の手紙をつくって学校に示しているとしたが、「全国学テ」でとったような

全教豊中は、この問題について、市教委学校保健課と交渉しました。調査の問題点を指摘し、実施反対の立場を主張。その上で、調査に参加することを学校へおしつけないことや教職員が知らないうちに管理職と当該学年だけですめることをしないことを求めました。

市教委

「学校へ参加をおしつけない」「職場での合意をとってすすめる」

全教

2008年5月21日

NO. 419

とよなか

全教豊中教職員組合

〒561-0874

豊中市長興寺南3-5-2

TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191

Eメール zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp

Webページ

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/>

5月16日、大阪府教育会館で5・16橋下「教育改革」を考えるシンポジウムが開かれ、府下各地から、教職員はもちろん、さまざまな個人・団体二三〇名が集まりました。

児童文学者鳥越信さんが「児童文学館への思い」ということでミニ講演をおこない、その後、シンポジウムがおこなわれました。フロアからの発言もたくさん手が挙がり、橋下PT案に対する疑問・批判が次々出されました。高校生や大学生からの発言もあり、府民・弱者にとんでもない犠牲を強いようとする橋下財政再建PT案に対する府民の連帯した運動をすすめていくと確認しました。

くらし・福祉、教育・文化予算をけずって、何のための財政再建か？

「破算だ！」
「職員給与は大幅削減」

シンポコーディネーター中山徹（奈良女子大准教授）さんの話から
「大阪府は破産状態ではない！」
サッカーでいえば、イエローカード直前。台風でいえば、まだ注意報も発令されていない。

「1100億円
予算削減だ！」

今年度一〇〇億円の予算削減は府民生活にとんでもない犠牲を生じさせる。
住宅ローンの返済を飲み食いせず5年で返済するのか、20年・30年で返済するのか。一定の生活を進めながら、ローン返済するのが通常。府の赤字返済も同様。

「教育・くらし守り
拡充し財政再建できる！」

20年の期間と想定して、年間三〇〇億円程度の削減で再建可能。

教職員・府職員の人件費削減は府民にもガマンを求めめる口実です。財政赤字の原因（90年代からの大型公共事業と国からの財政削減）への反省と見直しから財政再建を考える必要があります。



「私学助成は生徒の命綱」 シンポでの短大生の発言（要旨）

短大で保育士になることを目指して勉強をしています。私学助成を削減しようとしている橋下知事に、高い私学の授業料のことで悩んでいる高校生がたくさぬいるということを知ってほしいと思いい発言します。

公立高校の受験に失敗、私立高校に通うことになりました。苦しかった家計はもっと苦しくなりました。おまけに高校

1年の時、父は不況で自営業を廃業、生活はどん底になりました。塗装業や、墓石の加工業のアルバイトをしながら生活をつないでいました。新聞配達や代行運転の仕事を持ち持ちしながら働いていた時期もあります。給料日前は、ご飯に目玉焼きとゆかりかけということも日もよくありました。

家が大変になり、私もとん屋でアルバイトを始めました。家に帰るとクタクタで、勉強しないといけないのに、寝るだけの生活になってしまいました。「家族みんな、生懸命働いているのに何でこんなに生活が大変なんやろ？お金に困ってなければ、また違う毎日があるのかな？」って思ったこともあります。

3年になり、就職が進学が悩みました。

学費のことで一度は進学をあきらめました。し

かし保育士になる夢を捨て切れず、奨学金を受けて進学することにしました。今、奨学金を借り、全部授業料にあてて短大に通っています。卒業して36歳まで一五年間、毎月返していかなければなりません。就職できるかどうか分からないのに、不安感に襲われます。進学で本当によかったのか？と気持ちが揺らぐこともあります。

高校では、お金のことで両親に迷惑をかけたので、短大では苦勞をさせたくないと思います。

・高校時代の友達も、高い学費に心を痛めて学校に通っていません。「お母さんごめんね」と心の中で、つぶやいていたという友達もいます。学校に行き、勉強して友達と楽しく過ごしたいだけなのに、なぜ苦しまなければならないのでしょうか。

今まで、高校から学費がかかってあたりまえ、私立は高くてあたりまえとってきました。しかし、高校の生徒会で私学助成の問題を学ぶ中で、ヨーロッパの国では、大学まで学費が無償で、授業料という言葉さえないと言ったことを知り、国の政治が教育に大きくかかわっている

ことに気がきました。政府は、お金がないと言いなから、税金から年間6千億円もお金を米軍に出しています。これだけお金があれば、私立授業料を公立並にすることができそうです。米軍再編のために使う3兆円があれば、すべての授業料を大学まで無償にできるそうです。苦しんでいる高校生がたくさんいるのに、国はどうして私たちのために税金を使ってくれないのか…本当に腹が立ちます。

大阪府も同じです。私学助成を削れば、学校に行くことができない人がたくさん生まれてしまいます。今、奨学金を受けている人が増えていると聞きました。私の母校では、06年に37%だった奨学金受給者が、08年には40%になり、昨年は45%になったそうです。府民の苦しさがわかると思います。なのに、橋下知事にはどうしてその声が届かないのでしょうか？

先日、母校の高校では、私学助成を守ろうと、生徒会が全校放送で呼びかけ、ホームルームで橋下知事へのはがき運動に取り組みました。

その中の声です。
『お金がない』と言いなから毎日働いてくれている母を見ると、ものすごく悲しい気分になる。今の私学助成でもしんどのに、それが減らされてしまったら

このままちゃんと卒業できるのか？って怖くなる。お金のことを気にしないで学校に通いたい。ちゃんと卒業したい！」
「うちの家は、小さいころ両親が離婚し、母一人で僕と兄を育ててくれました。やっと高校まで来て、これから恩返しができると思ったのに、私学助成が削られたら学校を続けられるかどうか分からなくなると。今橋下さんがやろうとしていることで、どれだけの高校生の笑顔と夢が奪われるのか、わかってください。」

同じ気持ちです。私は、高校3年間、本当に授業料のことで苦勞しました。「何で授業料なんかあるんやろ？」って何度も思いました。何もかも嫌になって先生に泣きながら相談したこともありました。そんな辛い思いをもう誰にも味わってほしくないのです。私学助成は、私立に通う生徒の命綱です。橋下知事、どうか子どもの学ぶ権利を奪わないでください。お願いします。



私たちのまち 豊中の歴史

地名が語る4

「島熊山」

高市

光男（元豊中市・校長）

豊嶋の「豊」は、豊中の

DNAとして生きている。

「島」は、海に浮かぶ島を連想するが、むしろ水辺、水に囲まれた土地の表現だと「地名用語語源辞典」に書かれている。浜・洲・江なども同じである。自然の姿がそのまま地名となったわけではなく、そこに人間の生活とがかかわって地名が構成されていく。極論すれば人間の居ない所には地名がいらないのである。

豊中市南部にはこのような地名が多い。小曾根（浜・長島）庄内（菰江・島江・島田）南豊島（上津島）というように江戸時代の旧村名だけでもこんなにある。

小字を拾ってみると島のつく小字名26、浦4、浜3、深（ふけ）沼、砂、川各2江、崎、沖、池、水などを豊中市小字表から拾い出すことができる。

古代には、これらの島々は形成過程であって、生活の場としては不適だったろうが、治水・かんがい等の工夫をこらしながら、生活面を広げていった。

大和朝廷は南方にあったから、その支配は南からということで、川や入江の往来も盛んであったろう。その行きついた所は穂積や利倉という豊かな農業地帯が展開し、租税を徴収する基盤として条里が施かれた。

農業や漁業の時代が過ぎて急速に都市化が進んだ今日、治水も進み、ポンプ場を設置し、地下水位もさがりというように、都市生活にかなった環境の中で、こうした地名との縁も薄くなつてきている。

さて、豊中の最高峰？島熊山（一一二・三m）はどうして島なの？「いや昔はここまで海だったのよ」「そうそう刀根山からマンモスの骨が出たよな」というような会話はちよつとね。マンモスの時代と地名が出来る時代は全く違うよ。

島は豊島郡の島、熊はクマ、隅、スミの意味である。大和朝廷が南にあったからこの山は豊島の奥、端っこで、下島郡（現在の上新田あたり）の境にもあ

たるからです。この山を越えるのはなかなか大変でした。

万葉集に

玉勝間 嶋熊山の夕暮に
独りか君の
山路越えなん

玉勝間は枕詞だが、玉のような立派な竹籠の意。籠を背負って一人山を越える下級貴族の無事を想う妻の歌だろう。

